されていた。キキョウ，カワラナデシコが刈り残されている。池には，ヒシ，イヌタヌキモ，シャジクモ，ヒルムシロ，サンカクイ，コガマ，ジュンサイ，ウキクサなどが見られた。

今回，目についたものについては採集し標本として，頌栄短期大学にて収蔵する予定であるが，今後，打ち合わせを行って調査するポイントを絞っていかないといけないと感じた。

3　「宝塚の高司児童館の植生調査」

後藤統一

園庭除草の省力化に向けての基礎調査（中間報告）宝塚市高司児童館の環境整備も手がけている非営利組織メリーポピンズから，阪神支部に雑草制御の省力化はできないかという相談があった。

雑草を根絶すると昆虫もいなくなる。子供たちが草や虫と遊ぶことができ，園庭としての外観を，可能な限り省力化を計りながらも，維持するにはどのようにすればいいのか。このような観点から雑草制御のため基礎資料を収集中である。

4　「兵庫県菅生川産カワリヌマエビ属エビに付着する中国産ヒルミミズの実態と問題点」

丹羽信彰

①日本固有種『ミナミヌマエビ』が絶滅しようとしている。

2003年夏，菅生川産の本種の繁殖に関して卵を観察中，『変な虫』が体表に多数付着していることに気付いた。この『変な虫』は何か？中国産ヒルミミズ（Holtodrilus truncatus）と同定され，世界的権威メイン大学Gelder博士も巻き込んで大騒ぎになった。現在，年間20ﾄﾝ近く中国から輸入されている釣り餌用生きエビ（ブツエビ）に中国産ヒルミミズが付着して，非意図的に移入され，全く知らないうちに日本の河川に広がって，中国と日本のエビの交雑種が出来，日本固有種『ミナミヌマエビ』が絶滅しようとしている。まさにニッポンバラタナゴがタイリクバラタナゴに駆逐されたこの『エビ版』が進行している。

②インターネット販売も行なわれ，本来の分布域以外でも採集され，生物撹乱が進んでいることが窺える。

釣り餌用として販売される他「ミナミヌマエビ」の名でアクアリウムの観賞用動物や水槽の苔取り用としてインターネット販売も行われている。焼津および琵琶湖以西から鹿児島県にかけて分布記録があるが，分布記録のない千葉，神奈川県で採集され，京都市深泥が池や琵琶湖でも採集されるようになった。またハワイ，オアフ島真珠湾付近の淡水域でも採集され，密放流された可能性もある。

③中国からの釣り餌用生きエビ輸入に伴ってヒルミミズやエビヤドリツノムシなど付着生物があたかも『中国の一部を切り取るように』全くノーチェックで輸入され日本に広がっている。

④エビに付着するヒルミミズの生態については全く不明で産卵場所と産卵からふ化までについても触れた。

平成17年度生物学会西播支部活動報告

10月22日（土）的形町福泊海岸植生調査

生物部会西播磨支部・自然保護協会姫路支部共催

高校生７名を含め，計１６名が参加し実施されました。

９時半　杉田隆三先生の趣旨説明の後，山本一潔先生の実施方法の説明を聞き，４つのグループに分かれて砂浜の植生調査を行いました。

調査は午前中に終了し，海岸で弁当を食べた後解散しました。

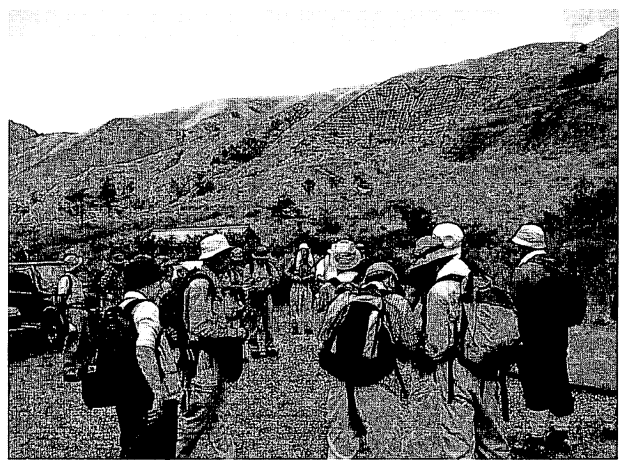
10月30日（日）第５回里山観察会　上郡町赤松　「赤松の郷　昆虫文化館」

講師　昆虫文化館館長　相坂耕作　先生

横山正先生が指導する赤松原体験教室の児童18人を含め総勢38名が昆虫館に集い，相坂先生のバッタ類のお話を聞き，昆虫館の見学をしました。原体験教室の関係者以外は昼食の後，車に分乗し近くの神社・寺院を案内していただきました。

赤松　　松雲寺のカヤ（樹齢800年）
苔縄　　法雲寺のビャクシン（樹齢800年　日本一）
岩木　　大避神社のコヤスノキ群落

夏期研修会参加報告

奈島弘明

生物学会以外に兵庫植物同好会と合同で研修会があった。参加者は30名。